

巻頭言



会長 中前 和則

2018 年同時改定に向けて

初夏の候、会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと存じます。去る、平成 27 年 6 月 6 日（土）にホテルオークラ東京におきまして、日本理学療法士協会創立 50 周年記念式典及び祝賀会が挙行政され、日本理学療法士協会の理事として参加させて頂きました。

式典では、厚生労働大臣表彰を和歌山県士会から 5 名も頂くことができました。この場をお借りしまして、受賞されました方々にお祝い申し上げますと共に、私自身も受賞させて頂きましたことに深く感謝申し上げます。記念式典では、設立当初からの歴史に触れることができ、先人たちの努力に敬意を表しますと共に、今後の理学療法の発展のため、益々精進努力しなければならないと強く感じております。

さて、現在、私たち理学療法業界を取り巻く環境は大きく変革の時を迎え、大きなチャンスでもあり大きなピンチでもあります。2012 年 2 月閣議決定された社会保障・税一体改革により示された 2025 年の医療提供体制の改革は、現在、病床機能報告制度により各病院の現在の病床機能を報告し合い、今後の医療圏ごとの必要な医療体制に応じ病院ごとの役割を再編成するという大変な変革が粛々と進められています。また、地域包括ケアシステムの推進により、地域ごとの医療と介護の一体改革が進められ、医療と介護の連携、サービスの種類、質の向上のための体制作りが構築されようとしています。

また、それら 2025 年の完成を視野に入れてスケジュールを検討するとポイントとなるのが 2018 年です。この年は、医療・介護の同時改定が実施されるのに加えて第 7 期医療計画がスタートする年で、2025 年モデル実現に向けて重要な位置づけとなる年です。これにより向こう 10 年間の医療保険と介護保険の方向性が決定づけられると言われております。

私たち、理学療法士の今後の「役割」「活躍の場」「収入」は一体どうなっていくのでしょうか。

日本理学療法士協会では、地域包括ケアシステムの推進に向けて、厚生労働省と折衝しながら協会組織をあげてこの対策に取り組んでいます。都道府県士会に対しては、士会の組織力の強化、リハ 3 団体の連携、都道府県・市町村との連携の必要性を強く訴え、私の所属する地域包括ケアシステム推進渉外担当部会でも検討を重ね都道府県士会の底上げのための発信をし、職能局では、2018 年度の同時改定に向けてデータ収集に奔走しています。

対外的には、行政府である厚生労働省等とのパイプは、組織内議員の山口和之現参議院議員が、前々回の民主党政権時代の衆議院議員に当選した

ことをきっかけに、徐々にパイプが太くなり、今では医療保険改定についての意見交換ができるまでになっています。今回の制度改革への対応につきましても、半田会長を中心に連携しながら推進しています。

また、私たちの政策や提言の大枠を形にするのは立法府であり、現在は政権政党である自民党が大きな力を持っています。私たちの思いを形にするには、議員の方々に私たちの政策を理解して頂かなければなりません。現在、「リハビリテーションを考える議員連盟（会長：丹羽雄哉元厚生大臣、平成 25 年 9 月に発足）にて、53 名の自民党国会議員の方々と現在の課題について定期的に勉強会を行っています。日本理学療法士連盟及び都道府県連盟も組織力を高め、これらの国会議員の方々を後押しする体制が整いつつあります。

以上のように、2018 年の同時改定を視野に入れながら、2025 年に向けて理学療法士の立場をより有利にするため、組織内外への活動を通じて多方面から積極的に取り組んでいます。

創立 50 周年を迎え、会員は 10 万人に達しながら、組織率は 80% 近くを保っています。私たち一人ひとりの力は小さくとも、高い組織率と会員数 10 万人は大きな組織力となります。

この組織力を活用して、私たち理学療法士の取り組みをより有利に進めるためには、この数を活用し他のコ・メディカル団体と同様に政権政党に理学療法士の国会議員を擁立することが絶対必要です。

そのような中、日本理学療法士連盟が次期参議院選に候補者の擁立を検討しているようです。

日本理学療法士協会は、国民・国益のために理学療法の活用について正当な政策提言を行うことが重要な役割です。

理学療法士連盟は、協会と両輪となり、政策を理解して下さる国会議員を積極的に支援することが役割です。

理学療法士の一人ひとり、日々患者さま第一主義で、学術研鑽・治療技術の向上に努めることが重要な役割であり、一方必要とされる時には組織の一員としてしっかりと活動し、大きな力的一端を担うことが重要です。

20～30 歳代が 70% 以上を占める本会の主役は若い会員の貴方たちです。今後も理学療法士で生計を立てて行く会員は、上記の事を真剣に受け止め目先の利益のみに囚われることなく行動することが必要です。

熟年層の私たちは、それをしっかりと導き支援する役割があります。本年度におきましても、各々の役割を担いながら本会の運営にご協力頂きます様宜しくお願い申し上げます。

(公社) 日本理学療法士協会設立 50 周年記念式典・祝賀会の報告

～和歌山県より 5 名 厚生労働大臣表彰受賞される！～

副会長 広報局担当理事 吉富 俊行

去る、平成 27 年 6 月 6 日（土）、ホテルオークラ東京「平安の間」におきまして、公益社団法人日本理学療法士協会設立 50 周年記念式典及び祝賀会が行われました。

当協会から南和幸理事、安井常正理事、そして私の 3 名が出席しましたので謹んで報告させていただきます。

第 1 部の記念式典では半田会長の式辞の後、塩崎厚生労働大臣（代読）、横倉日本医師会会長、堺日本病院協会会長、水間日本リハビリテーション医学会理事長、坂本日本看護協会会長からご祝辞を頂戴し、下村文部科学大臣からの祝電披露がありました。

続いて、厚生労働大臣表彰の表彰式があり全国で 34 名が受賞されたなか、和歌山県から坂口進至先生（琴の浦リハセンター）、高田常一先生（中谷病院）、中前和則先生（琴の浦リハセンター）、上西啓裕先生（和医大）、池田吉邦先生（さくらの丘）の 5 名もの先生が受賞され、当県と致しましても非常に喜ばしいことで、受賞されました先生方の名誉を祝し心からお祝い申し上げます。

最後に賛助会員、歴代会長、永年会員に感謝状が贈呈され閉式となりました。

第 2 部の記念祝賀会では丹羽雄哉衆議院議員、田野瀬太道衆議院議員、Emma Stokes 世界理学療法連盟会長、上田敏日本障害者リハビリテーション協会顧問からのご祝辞の後、兵庫県立リハビリテーション中央病院名誉院長 澤村誠志先生より乾杯のご発声があり、厳かに記念祝賀会が始まりました。

参加者は国会議員、厚生労働省、関係団体、海外来賓、賛助会員、日本協会役員、委員会委員長など約 350 名で、理学療法業界では著名な先生も多く、緊張した面持ちでテーブルに向かい、名刺交換などを行いながら美味しい料理を頂きました。

遠藤文雄初代会長からは設立当初のエピソードや歴史についてのお話があり、当時の苦労と努力が礎となり 50 年を経て現在の日本協会があり、和歌山県理学療法士協会もそれを受け継いで存在するということに改めて認識し、今後の協会発展に向け日々努力していかねばならないことを痛感いたしました。



◇厚生労働大臣表彰を受賞して

社会局担当理事 池田 吉邦

平成 27 年 6 月 6 日(土)ホテルオークラ東京「平安の間」において、(公社)日本理学療法士協会設立 50 周年記念式典におきまして、厚生労働大臣表彰という大変名誉ある賞を頂きました。今回の表彰では、和理協会表彰審査委員会、県協会を通じ日本理学療法士協会から厚生労働省へのご推薦を頂き、全国 34 名の受賞者のうち、5 名(全国トップ)が和歌山県士会の役員及び元役員の先生方でありました。また、和歌山からの表彰者として、坂口進至氏(元副会長)・高田常一氏(元会長)・中前和則氏(現会長、日本協会理事)・上西啓裕氏(現副会長)とともに受賞できた事は、光栄の至りに存じます。

私は、昭和 57 年に理学療法士免許を取得し昭和 57 年に入会(会員歴 33 年)、昭和 59 年より和歌山で勤務し、昭和 63 年 4 月より、社団法人 和歌山県理学療法士会の理事(厚生部)に就任させて頂き、和歌山県士会役員 28 年を歴任し県士会活動に微力ではありますが、現在まで努めて参りました。また、和歌山県士会役員(歴)としては、理事(1988～2004 厚生部、2004～2015 社会局)、身分対策推進特別委員長(2012～)、和歌山県理学療法士連盟・理事(2003～2011)兼務、県協会表彰審査委員・災害対策特別委員、介護認定審査会委員(2000～)等で、協会事業運営を支援しています。職場では、医療機関(26 年)から現在は介護保険領域・老健施設(7 年)に勤務し、地域包括ケア推進リーダー並びに介護予防推進リーダー(2014～)として福祉保健分野でも地域で肅々と若い会員の皆様を支えながら社会貢献できればと思います。この度の受賞は、ひとえに支えてくださった皆様方のご指導・ご協力の賜物であり、深く感謝いたします。有難うございました。

◇平成 26 年度和歌山県医療従事功労者表彰受賞の報告

表彰審査委員長 前 裕充

去る 3 月 18 日(水)に和歌山県医療従事功労者賞の授賞式が和歌山県庁で有りました。今年度は当会より中前和則氏、上西啓裕氏の両名が受賞されました。授賞式は「和歌山県庁本館 4 階、正庁」にて知事及び福祉保健部長、医務課長および関係各位、約 50 名の参列で肅々と執り行われました。会長・副会長揃っての受賞、誠にめでたう御座いました。



理事会 報告

■平成 26 年度第 9 回理事会 報告■

日 時：平成 27 年 3 月 21 日(土) 15:30～19:30
場 所：和歌山ビッグ愛 12 階 協会事務所

参加者：13名

(理事) 中前、林、吉富、森本、前、岩崎、松井、池田、南、永金、西川、安井

(監事) 浦

(書記) 前

議事録署名人：中前、浦

委任状：須賀、辻中、川村、上西

・会長挨拶：日本理学療法士協会役員選挙への協力に対し、お礼を申し上げます。

3月18日に和歌山県医療従事功労者賞を上西副会長と共に受賞し、有り難うございました。

議案：

1. 会長資料：平成27年度アクションプランを提示

PT・OT・STの3団体での連絡協議会を立ち上げて進めていきたい。

日理協からの資料（地域包括ケアシステムの推進について）として医師会等への依頼を各県士会（3団体）で行って頂きたい。→承認

2. 平成27年度協会事業計画案について

協会事業計画案について

予定を各理事にて確認→承認

各局事業計画案について

各予定は前回承認済み→承認

3. 平成27年度協会事業予算案について

新たな財政基金の事業めどが立っていないので、削除した。

国体支援事業のうち、障害者スポーツ大会の予定が変わってきたので予算を変更した。→承認

4. 資金調達及び設備投資の見込みについて

別紙資料にて説明→承認

5. 各規程について

1) 財産管理運用規程について

資料にて説明→承認

2) 印章管理規程について

資料にて説明→承認

3) 会費減額規程について

資料にて説明→承認

6. その他

1) 日本理学療法士協会から地域包括ケアシステムについて

日理協からの資料を説明、和歌山県では3団体（PT・OT・ST）にて推進する。→承認

2) 長寿社会課生活支援室からの依頼について

県長寿社会課からは地域包括支援センター機能強化事業に係る事業委託の話も来ている（6団体ぐらいに依頼予定）、27年度は予算化され会議等に出席することとなる。

費用（交通費・講師料等）は今後検討とする。→承認

3) 日理協理学療法士講習会について

日理協に申請した講習会5件のうち3件が不採択となった。

これを和理協の単独事業として実施する方向で検討する。（協会事業計画案とする）

不採択分については、日理協からの助成金（6万円）は受益者負担とし計画を立案する。→承認

学術局より、不採択3件の計画・予算案を作成する。

4) 和歌山市地域ケア会議について

5月22日に和歌山市の第8圏域の地域ケア会議に関する会議が開催される（龍神氏）、協会として7名を選出し出席する。人選は今後検討する。

不明な点について、岩崎理事に確認をお願いする。

5) 平成27年度地域医療再生補助金事業計画案について

森本事務局長より事業計画資料を提示。一部予算変更する

介護予防推進実務研修会（わかやまシニアエクササイズ）の計画にあたり、本山先生と早急に連絡を取り進めていく（岩崎・松井が担当）→平成27年度地域医療再生補助金事業には入れない。→承認

6) 会員復会申請、異動等について別紙→承認

平成27年3月17日現在 会員数：1,019名

7) 国体支援特別委員

ウインドブレーカー作成について 資料のとおり作成する。

費用は、27年度予算案の中で審議→承認

- 8) 地域リハ講座について
地域局事業として開催を検討する。
- 9) 永金理事が紀南地域に異動するが紀北地域局担当理事として残る。
林副会長には、不在におけるサポートをお願いする。
第1ブロック部長は美濃先生（はしもと整形外科）に任命→承認
また永金理事には災害対策について担当をして頂く。
- 10) 近畿学術大会について
平成27年度は兵庫県担当にて2日間開催となっており、分担金が750円の予定であったが、大阪府士会が未承認となったため、分担金500円とし現在の繰越金のうち300万を補填することとなった。
和歌山でも大会長、副大会長で早急に予算案提出する。→承認

■平成27年度第1回拡大理事会 報告■

日 時：平成27年4月25日（土） 15:30～18:30

場 所：アバローム紀の国3階 孔雀の間

参加者：36名（理事14名、監事2名、部長19名、相談役1名）

（理事）中前、林、上西、吉富、森本、前、岩崎、須賀、松井、池田、南、永金、辻中、安井

（監事）川村、浦

（部長）坂本、小田、酒井、小池、浅見、原野、三嶋、中口、青石、藤野、津村、上野山、阪口、川端、美濃
鍋嶋、橋尾、泉、西畑

（相談役）高田

- ・会長挨拶：日頃は（公社）和歌山県理学療法士協会の運営にご協力いただき有難うございます。当会は1,000名を超える会員の組織となりました。組織の活動は、会員各々が参画していかなければならない。協会事業運営は理事だけではなく、各部長・部員の参加を促し、全体で活動できるようにしたい。協会活動は学術研鑽・公益活動・職能活動の3本柱で進めていきたい。当協会は、日本理学療法士協会の活動に支援・協力することで、組織力の更なる強化を進めたい。また、今後地域包括ケア推進検討特別委員会を設置し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3団体を中心に地域包括ケアシステムを推進していきたい。前回の県議会議員選挙において16名の議員を推薦し、全員当選したことから、その議員を中心に県下における理学療法推進のための議員懇談会（仮称）を設立し、県内の理学療法の地位向上を図りたい。本年開催の和歌山国体を支援・協力することで、地域貢献を図りたい。当協会の活動は個々の理学療法士のための活動であり、それが当協会の組織強化につながり、また日本理学療法士協会の組織強化にもつながると考えている。

・委嘱

第1ブロック長：美濃真豊（はしもと整形外科）

IT部長：川端一世（日赤和歌山医療センター）

議 案：

1. 入会・復会申請の承認について（3/16～4/21）
新卒入会申請22名、復会申請1名→承認
2. 平成26年度事業報告・決算について→承認
 - 1) 協会事業報告ならびに各局事業報告について
事務局より協会全体の事業報告を行う。
各局担当理事より詳細な事業報告を行う。
 - 2) 事業決算について
財務局より、決算報告を行う。貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録等財務諸表を提出
 - 3) 監査報告について
監事より平成27年4月12日監査を行い、事業および計算書類等について不備はなく適正に示されていることの報告あり。
3. パソコン購入について
学術局より紀南地区での講習会開催の場合受付業務を円滑に行うために、紀南地区で管理運用するパソコンを購入したい。
局費の中で購入できれば局内で対応し、予算がなければ協会として支援することに全員一致で承認
4. 各局からの報告・提案：

- 1) 事務局：各担当部長より別紙にて報告
退会希望・休会希望者が増加してきており、各地域局をはじめ、各局理事の方々にはできるだけ慰留の説明をお願いしたい。
 - 2) 学術局：各担当部長より別紙にて報告
 - ①研修会の受付方法について、研修会の休憩時間中に帰ってしまう受講者が目立つため、入室時の受付だけでなく、講習会終了後の退出受付も行うようにしたい。
 - ②履修ポイントの管理をスムーズに行いたいので、協力をお願いしたい。
 - ③今年度のPNF講習会を受益者負担の講習会とする。
 - 3) 福祉・各担当部長より保健局：別紙にて報告
 - ①地域包括ケア推進リーダー・介護予行推進リーダーの履修・承認作業を順次進めていく。
 - ②地域包括支援センターが県内46圏域あり、各圏域にリハビリテーション講習として理学療法士を派遣する事業がある。これにリーダー取得者に対し講師派遣を適宜依頼したい。また、会員に対する依頼については各地域局に協力をいただきたい。また、地域局の各ブロックにおいてこの事業に対するリーダー等を委嘱していく必要があると考える。
 - ③全国介護予防推進デイ事業については地域医療再生事業の補助金を使うため、予算の作成を早急に行う。
 - ④今年度の地域包括ケア推進リーダー・介護予防推進リーダー研修会は1回とする。
 - 4) 社会局：各担当部長より別紙にて報告
 - ①昨年度より始まった、認知症クリニカルカンファレンスセミナーは次回、第4回より医師会・薬剤師会・看護協会にも広く声掛けし、参加職種を拡大していくので、多くの会員の参加を促したい。
 - ②今年度の病院協会学術大会のシンポジストは第4ブロックの会員の中から選出したい。
 - 5) 厚生局：各担当部長より別紙にて報告
 - 6) 広報局：各担当部長より別紙にて報告
 - 7) 紀北地域局：各担当部長より別紙にて報告
 - 8) 和歌山市地域局：各担当部長より別紙にて報告
 - 9) 中紀地域局：各担当部長より別紙にて報告
 - 10) 紀南地域局：各担当部長より別紙にて報告
 - 11) 代議員：別紙にて報告
 - 12) 国体支援：別紙にて報告
 - 13) 財務局：別紙にて報告
各事業運営時は実際の予算を作成し、事業終了後は1か月以内に事業報告・決算をお願いしたい。
5. その他
- 1) 第56回近畿学会について：承認
 - ①開催期間を2日間とする。
 - ②近畿学会専用ホームページを和歌山国際厚生学院に依頼できないか検討する。

■平成27年度第2回理事会 報告■

日時：平成27年6月20日（土） 15:30～18:35

場所：和歌山ビッグ愛 12階 協会事務所

参加者：12名

（理事）中前、林、上西、吉富、森本、前、岩崎、松井、須賀、池田、南、辻中

（監事）川村

（書記）前

議事録署名人：中前、川村

委任状：永金、西川、安井、浦

・会長挨拶：先日、日本理学療法士協会で50周年記念式典開催された。

議案：

1. 入会・復会申請について
新入会42名、復会2名の申請あり。→承認
2. 第70回日本体力医学会和歌山大会後援名義の依頼について→承認
大会参加者の履修ポイント付与について→C-2で認定する。
3. 第29回和歌山県理学療法学会学術大会について
日理協より連絡があり学術大会等の日程報告依頼あり。

- 3月13日(日)開催予定 会場は中紀地区とする(前日は理事会)。→承認
4. 和歌山県病院大会への県協会代表シンポジストの選出について
会場：11月1日(日) アバローム紀の国
テーマ：「人材育成について」 学術局にて発表する。→承認
5. 第56回近畿理学療法学会(案)
日程：平成28年11月26日(土)・27日(日)
会場：和歌山県民文化会館
担当：和歌山県理学療法士協会
テーマ：理学療法の可能性 ―医療・介護・教育―
組織案・企画案・予算案提出→承認
6. 各局からの報告・検討：
- 1) 事務局：
- ① 会員異動等について
別紙 平成27年6月15日現在 会員数：1,089名
今年度の新卒入会者は90名
- ② 理学療法講習会開催事業(地域リハ講座)の委託について
紀北局(第1ブロック)、紀南局で計画
- 2) 学術局：
- ① 第29回和歌山県理学療法学会について→3月13日(日)決定
② 8月8日(日)予定の理学療法専門研修会は8月7日(土)に変更
- 3) 福祉・保健局：
- 地域包括ケア推進リーダー養成導入研修会、介護予防推進リーダー養成研修会
介護予防推進リーダーステップアップ研修会計画一部変更する。→12月13日(日)
和歌山シニアエクササイズ指導者養成研修会
学術局「人材育成研修会」の日程を変更する。
- 4) 社会局：
- ① 第20回病院協会学会大会において(11月1日開催予定)
・企業協賛金の紹介について
・県協会代表シンポジストの選出について(6/26までに返事)→学術局 上西理事を選出
② 7月12日施設理学療法士長の研修会への長及び中堅管理職PTの参加の促進 →徐々に参加申込みあり。
- 5) 厚生局：
- 新人歓迎会開催 参加155名(新人71名、既会員84名) 施設長の参加のない施設も多かった。
- 6) 広報局：
- ニュース原稿6月22日締め切り
- 7) 紀北地域局：
- 介護予防関連について報告有り(貴志川リハ病院：浅見)
- 8) 和歌山市地域局：
- ① 7/5 メディカルサポート講習会
② 7/9～7/26 高校野球メディカルサポート事業
③ 7/20 理学療法専門研修会を予定
- 9) 中紀地域局：
- ① 8/23 新人教育プログラムD-1～D-4
② 9/26 地域医療再生補助金事業として「脳科学とリハビリテーション」を予定
- 10) 紀南地域局：
- 10月、12月 内部障害に対するリハビリテーション(講義編・実技編)を予定
- 11) 財務局：
- 会費未納者リスト提示→各理事で対応できる場所は願います。
- 12) 代議員：
- 日本理学療法士協会の次期役員選挙から代議員での選挙となる予定
7. その他
- 1) 国体支援特別委員会
障害者スポーツ大会の支援について4名の会員(自主的に申し出有り)がサポートする。

- 2) 地域包括ケア推進特別委員会より報告
委員会の現在までの会議報告や日理協、県からの依頼等について報告有り。
地域ケア会議・介護予防への地域リーダーについて現在選定中である。
 - 3) 県医務課より、中前会長に在宅医療体制検討委員会委員の依頼あり承諾する。
保健医療圏域在宅医療体制検討委員会への委員の推薦について→特別委員会より委員選出する。
 - 4) 地域局を「支部」として地域の窓口を設けられないか？→組織力強化特別委員会にて検討する。
 - 5) 公益社団法人日本理学療法士協会 設立 50 周年記念式典の中で、厚生労働大臣表彰があり、和歌山県からは 5 名の受賞があった（高田常一氏、坂口進至氏、中前和則氏、上西啓裕氏、池田吉邦氏）。
 - 6) 県医務課より「新たな財政基金」についての委託を今年度も予定している。
8. 和歌山県議会議員との意見交換会報告
6月17日（水）開催の上記意見交換会について報告あり。

次回理事会（第3回） 9月12日（土）開催予定

福祉・保健局より

福祉保健局担当理事 松井 有史

福祉保健局では、昨年度末に訪問リハ研修参加、難病生活応援講座、今年度初旬に社会局との合同で研修会を行いました。当局では7月から11月にかけて事業が多くございます。地域の皆様と福祉・保健活動を通して理学療法士のつながりを持つよう積極的に事業展開を行う予定です。皆様のご参加お待ちしております。

◇日本理学療法士協会「推進リーダー制度」について

福祉保健局担当理事 岩崎 正和

日本理学療法士協会で行われている推進リーダー制度に関して、『地域包括ケアシステム』を推進するにあたって、「地域ケア会議」、「介護予防」の2つの施策に重点を置き、地域ケア会議が法定化される平成27年度を目安とし、地域包括ケアシステムに関わることのできる人材の育成を始めております。そのための育成制度として、『地域包括ケア推進リーダー』、『介護予防推進リーダー』の2つの認証コースを設定し、昨年度から推進リーダーを輩出しております。

今年度も研修会を開催する予定ですが、昨年度より下記の通り制度の一部改訂があります。

【変更点①】

推進リーダーの取得を目指すのは、「新人教育プログラム修了者」となります。

2014年度に推進リーダーの取得を目指されている会員（＝推進リーダー登録をした会員）で、新人教育プログラム未修了の方には、新人教育プログラム取得のための猶予期間を設定いたします。

【変更点②】

履修要件の「士会指定事業」は、必ずご所属の士会でご参加ください。

他県士会での士会指定事業の参加は履修付与となりませんので、必ずご所属の士会にてご参加をお願いします。

また、昨年度と同様に、推進リーダー研修会を受講する前には必ずeラーニング受講が必要となります。
eラーニング免除に関しましては種々の要件があります。

詳細については、日本理学療法士協会ホームページをご覧ください。

◇第5回訪問リハビリテーション研修会

地域包括ケア推進部員 小橋 信行

今回の研修会は平成27年度介護保険改正直前というタイミングでの開催となりました。

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的で地域包括ケアシステムを構築していく大きな流れの中、在宅でサポートする訪問リハビリテーションの重要性を共有できました。また今回の改正内容を研修会でも取り上げられ、国の方針も認識することもできました。また和歌山県下において3士会合同で行う研修会は貴重であり、有意義な研修会となりました。

当日ご参加いただきました先生方、準備に協力いただきました先生方ありがとうございました。

主催：公益社団法人 和歌山県理学療法士協会
一般社団法人 和歌山県作業療法士会
一般社団法人 和歌山県言語聴覚士会

日時：平成27年3月7日（土）～3月8日（日）

会場：和歌山YMCA国際福祉専門学校

参加者：両日参加 理学療法士41名、作業療法士7名、言語聴覚士3名、看護師1名、保健師1名
7日のみ参加 理学療法士10名、介護支援専門員7名、介護福祉士1名
8日のみ参加 理学療法士13名、作業療法士4名、看護師2名、管理栄養士1名

内容：①「平成27年度介護保険改正から読み取る地域包括ケアシステムと訪問リハビリテーション」

講師：坂 伸子先生（大東市保健医療部 地域保健課）

内容：②「活動と参加につなげる訪問リハビリテーション」

講師：露木 昭彰先生（有限会社 足柄リハビリテーションサービス 代表取締役）

内容：③「ご利用者様と心を通わす接遇」

講師：茨木 貴子先生（医療介護接遇コンサルタント）

内容：④「利用者の病状把握に必要なフィジカルアセスメント」

「訪問時に活用できるフィジカルイグザミネーション～呼吸・循環器系を中心に」

講師：平野 康之先生（徳島文理大学 保健福祉学部 理学療法学科）

①～③は「地域連携リハビリテーション研修会」として看護師、保健師、介護支援専門員、介護福祉士、管理栄養士も参加。



◇「リレーフォーライフジャパン2015 わかやま」事業参加

福祉保健局担当理事 松井 有史

今年で2回目となり、広報局と合同で参加しました。「リレーフォーライフ」とは、がん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者らが夜通し交代で歩き、勇気と希望を分かち合うチャリティーイベントです。世界20か国、国内では40カ所以上で開催され、世界中で毎年400万人以上が参加する事業で、今回は和歌山県作業療法士会と協力し、ブース出展を行いました。ブース出展内容としては、「医療（リハビリテーション）相談」「理学療法事業啓発」とがん患者さんや家族を対象に「リハビリ相談所」を設置しました。

ご協力・ご参加いただきました先生方、ありがとうございました。

主 催：リレーフォーライフジャパン 2015 わかやま実行委員会
日 程：平成27年5月23日（土）、24日（日）
会 場：和歌山公園 砂の丸広場（和歌山城）
内 容：ブースを設けて、医療相談・理学療法士協会事業啓発など
参加者：

福祉保健局：青石（済生会有田）、岩崎（さくらクリニック）、松井（国際厚生）
広報局：阪口・中村・西中（海南医療センター）、井潤（済生会和歌山）、前馬（日赤和歌山）



◇「リレーフォーライフジャパン 2015 わかやま」に参加して

さくらクリニック 岩崎 真之

リレーフォーライフジャパン 2015 わかやまというイベントが和歌山城の砂の丸広場で行われました。1985年にアメリカの医師が、がん患者は24時間戦っていると感じ24時間走り続けたことが起源と言われております。そこからがん征圧を目指し、がん患者や家族、支援者から夜通しトラックを交代で何周も歩くイベントです。昨年度よりもさらにイベントが多くなり、「がんなんかには負けない」「がん患者は24時間戦っている」と強いメッセージを体で受け取ることができました。今年は理学療法士協会、作業療法士会で「リハビリ相談」ブースを設けて活動しました。相談に来た方は、腰痛や膝痛などを抱え、生活に支障をきたし、専門職として助言を行うことが出来ました。また、私たちも支援と言う意味でトラックを何周か歩いてみました。同じように歩く参加者の顔が生き活きとして、こちらとしても元気を分けていただいた気持ちになりました。舞台ではヨサコイやライブ、医療講義など多種多様なイベントもありました。我々、理学療法士ががん患者さん、家族の皆さんに何が出来るのか？を考える一日となりました。とても良い経験となり、次回も参加したいと思います。

◇「リレーフォーライフジャパン 2015 わかやま」参加報告

海南医療センター 西中 一真

5月23日・24日、和歌山城砂の丸広場で開催された、リレーフォーライフジャパン 2015 わかやまに参加させて頂きました。昨年に引き続き理学療法士協会、作業療法士会合同で「リハビリ相談」のブースを開設し、理学療法の紹介・啓発をはじめ、杖先ゴムの交換等を実施しました。ブースに来られた方の中には、リハビリについてご自身の経験も踏まえてお話ししてくれる方もおり、大変貴重な時間となりました。

また、広場内にて「リレーウォーク」が行われました。これには夜通しのウォークを通じて、がんに向かう勇氣や喜びを共有するというコンセプトがあり、コース上にはメッセージが書かれた灯籠が置かれてあります。私達も歩いたのですが、その1つ1つを見ると、様々な立場からのがんに対する思いや考え方が見て取られ、理学療法士として出来る事は何かを再考する事が出来ました。

今回参加させて頂き、良い経験となりました。今後活かしていきたいと思っております。

◇第 20 回 WPTA 杯ゴルフコンペ

厚生局担当理事 南 和幸

平成 27 年 3 月 1 日（日）、白浜ゴルフ倶楽部において、第 20 回 WPTA 杯ゴルフコンペを開催いたしました。あいにく、台風のような暴風雨の中、皆さん棄権することなく頑張ってくれました。今回は幹事の岩田先生のご配慮で、地域再生事業等で協力体制の作業療法士会、言語聴覚士会にも親睦を深めるために声掛けして頂き、また、理学療法士の若い先生方にも多数参加して頂き、総勢 10 組 38 名の参加で盛大に開催することが出来ました。

優勝は、初参加の貴志川リハビリテーション病院、言語聴覚士の辻本真成先生でした。おめでとうございます。

ところで、残念ながら、長い間、コンペ開催していました、白浜ゴルフ倶楽部は 3 月一杯で廃業となり、このコースでは今回最後のコンペ開催となりました。いままでお世話して頂いた紀南病院の竹中先生有難うございました。

次回はコースを変えて、11 月 29 日（日）、ラ・グレースゴルフ倶楽部（印南町）で開催予定です。12 組エントリーしていますので、今回初参加の先生方もこの天候に懲りずに次回も是非参加してください。

◇平成 27 年度和歌山県理学療法士協会 新人歓迎懇親会報告

福利厚生部長 津村 正臣

平素は福利厚生局の協会事業に御協力頂きましてありがとうございます。

去る 5 月 23 日にアバローム紀の国にて、平成 27 年度和歌山県理学療法士協会新人歓迎懇親会が行われました。

当日は県内各地より新入会の先生方並びに既会員の先生方、合計 155 名もの多数の参加を頂きました。誠にありがとうございました。

新人の先生方の個性あふれる自己紹介、司会の津村の冴えない進行にも関わらず、先生方の御協力のおかげもあり、大盛り上がりの後に終宴となりました。

新人の先生方はいかがだったでしょうか？ 先輩の先生方への挨拶や名刺交換等で慌ただしかった事と思いますが、楽しんでいただけましたか？

このようなざっくばらんな会を機に、協会活動にもどんどん参加していただければ幸いです。ありがとうございました。



ブロック通信

第1ブロック広報部員 前田 直人

今年度も3ヶ月が経ち、みなさんいかがお過ごしでしょうか？新人の方は職場での仕事に少し慣れてきた頃でしょうか？

今年は、秋に紀の国わかやま国体があり、和歌山県全体の盛り上がりが予想されています。今回、ブロック通信担当の第1ブロックでも、高野山での1200年祭があり、日本中や海外から多くの観光客が訪れており、盛り上がりを見せています。今回は、「高野山の1200年祭」のことを紹介させていただきます。

弘法大師空海が開いた真言密教の聖地・高野山では、平成27年に開創1200年を迎えるに当たり、今年4月2日から5月21日の50日間に渡り、「高野山開創1200年記念大法会」が執り行われました。4月2日には、壇上伽藍中門において白鵬・日馬富士・鶴竜の3横綱による奉納土俵入りが行われ、最終日には秋篠宮さまご夫婦が高野山真言宗の総本山・金剛峯寺を訪れました。



記念大法会は終了しましたが、今後も「金堂」や「金剛峯寺」の御本尊の特別公開のイベントや、「壇上伽藍 根本大塔」での3Dプロジェクションマッピングのイベントが行われたりといろいろな催しが予定されています。和歌山県に住んではいるけれど、なかなか高野山に行っていないという方は、例年と異なったイベントがあるので、この機会に訪れてみてはいかがでしょうか。私も毎年初夏に、広報局のイベントで高野山を訪れる機会がありますが、イベント終了後「奥の院 弘法大師御廟（こうぼうだいしごびょう）」を訪れるまでの間、樹齢の長い木々の間を歩くと心がとても穏やかになる気持ちになります。ぜひ、一度体験してみてください。



また、食べ物に関しても普段味わうことが少ない「ごま豆腐」という有名なものがあります。毎年、高野山を訪れた際に購入するのですが、とても美味しいです。わさび醤油で食べると美味しいですよ。他にも、焼き餅やお饅頭などの美味しい食べ物がありますので、ぜひ、食も堪能してみてください。



【紀北地域局】

紀北地域局担当理事 永金 宣秀

第1回紀北地域局研修会

日 時：平成27年6月27日（土）15：00～18：00
場 所：公立那賀病院
内 容：「社会神経科学とニューロリハビリテーション」
講 師：松尾 篤先生（畿央大学健康科学部理学療法学科 教授）

会 議

日 時：平成27年4月8日（金）19：30～
場 所：名手病院
内 容：第1回 第1ブロック会議
参加者：7施設8名

会 議

日 時：平成27年6月3日（金）19：30～
場 所：名手病院
内 容：第2回 第1ブロック会議
参加者：6施設8名

【和歌山市地域局】

和歌山市地域局担当理事 辻中 清晃

和歌山市地域局研修会（第2cブロック担当）

日 時：平成27年6月14日（日）14：00～17：00
場 所：和歌山労災病院 リハビリテーション室
内 容：「理学療法士の特性を活かしたトレーナー活動～和歌山国体に向けて～」
講 師：鳥居 久展（角谷整形外科病院）
内 容：「競技特性を考慮したコンディショニングの実際」
講 師：小林 啓晋（角谷リハビリテーション病院）
内 容：「ドローインの基礎と実践 ～競泳競技を通して～」
講 師：高根 良輔（日赤和歌山医療センター）
参加者：20施設43名

3カ月後に紀の国わかやま国体開催を控え、会員の皆様への啓発や実際の活動の紹介、及びコンディショニングブースへの参加促しを目的に今回の研修会を開催しました。

鳥居先生には主に座学としてトレーナー活動の基礎を、小林先生と高根先生にはコンディショニングトレーニングとしてのコアトレーニングの基礎について実技を加えながらご講義いただきました。新人の先生方をはじめ若い先生方が多数参加され、実技では皆さん汗をかきながら頑張っておられました。

今回の研修会参加をきっかけに国体サポートや身障スポーツ大会のブース活動に参加していただければ幸いです。今後とも地域局活動にご協力の程よろしくお願ひ致します。



【中紀地域局】

中紀地域局担当理事 西川 典男

平成 27 年度中紀局学会

日 時：平成 26 年 12 月 21 日（日）9：00～17：00

場 所：海南市民交流センター

参加者：62 名参加

座 長 畑中 皓治（恵友病院）

1. 回復期リハビリテーション病棟の入院患者は早期家屋訪問により在院日数が短縮するか
北出病院 加藤 雄紀
2. 痙性拘縮により開排制限を呈した患者に対する閉鎖神経ブロック施行後の関節可動域の改善
北出病院 吉田 亜佑美
3. 福祉用具導入に対する考え方 ～転倒を繰り返す利用者を経験して～
北出病院 宮井 淳次
4. 急傾斜地で暮らすパーキンソン病患者の訪問リハビリテーション
栗原整形外科 木戸 純一

座 長 谷田 英明（辻整形外科）

5. 糖尿病性壊疽によるリスフラン離断後の義足及び装具の検討
北出病院 古川 千里
6. ストレッチポールエクササイズによる即時効果の検証 ～ベーシックセブンと基本姿勢保持の比較～
さくらクリニック 岡本 尚之
7. 足関節外側側副靭帯損傷術後の元実業団バスケットボール選手における歩行時の筋電図学的検討
北出病院 高原 誠
8. 心臓リハビリテーションにおけるリスク管理 ～上行性大動脈解離を呈した症例を通して～
国保日高総合病院 佐々木 博史

座 長 土谷 宏美（リバティ博愛）

9. 肘関節離断性骨軟骨炎の高校野球投手における投球側上腕尺骨間の弛みについて
北出病院 小柳 亮
10. 頸髄損傷不全麻痺により歩行能力が低下した一症例
恵友病院 辻本 陽介
11. TKA 術後患者に対する、アイシング方法の違いによる経過の比較と 1 症例での自動運動もしくは自動介助運動併用での経過の比較
済生会有田病院 伊豆 周剛
12. バッティングフォームを変更し早期野球復帰を目指して
北出病院 田口 雄大

座 長 高野 晋也 (済生会有田病院)

13. 約1年半の安静臥床から歩行器歩行能力の向上がみられた1症例
桜ヶ丘病院 貴志 雄一
14. 装具の不適合により難治性潰瘍を生じた脳性麻痺患者に対するPTB短下肢装具の工夫
北出病院 田中 希実
15. 特発性拡張型心筋症による安静加療後に自宅復帰を目指した取り組み
北出病院 木村 嘉希
16. 内反尖足、クロートゥにより歩行障害を呈した片麻痺患者に対し、ボツリヌス療法とリハビリが効果的であった1症例
北出病院 濱口 菜実

中紀局忘年会

日 時：平成26年12月21日(日) 18:30~21:00

場 所：ちゃんこ与太郎

参加者：11施設40名参加

新人症例検討会(4ブロックA)

日 時：平成27年3月17日(火) 19:30~21:00

場 所：国保日高総合病院

座 長 花澤 侑里佳 (リバティ博愛)

1. 右脛・腓骨開放骨折後PTB式免荷装具を用い完全免荷にて在宅復帰に至った症例について
北出病院 藤堂 博行
2. 免荷を必要とする全盲者の理学療法の一例
北出病院 嶋本 佳奈
3. 全盲を有する高齢患者に対して環境調整の重要性を感じた経験
北出病院 辻本 尚
4. 皮膚損傷を生じやすい症例に対し理学療法プログラムを工夫した報告
北出病院 瀬口 一真
5. 病棟と連携して緩和ケアに取り組んだ末期がん患者を経験して
北出病院 村山 正直

新人症例検討会(4ブロックB)

日 時：平成27年3月19日(木) 19:30~21:00

場 所：北出病院

座 長 小河原 崇 (国保日高総合病院)

1. 左視床梗塞、後頭葉梗塞の症例に対する食事動作獲得に向けてのアプローチ
リバティ博愛 西谷 和起
2. 外反母趾部に糖尿病性皮膚潰瘍が出現した患者の立ち上がり動作について
和歌山病院 橋本 栞
3. 悪性症候群の合併症による長期臥床後に食事動作の獲得に至った一例
北出病院 山本 祐司
4. 末期変形性膝関節症を呈する脳疾患患者の一例～転帰先変更へ向けてのアプローチ～
北出病院 古川 大貴

新人症例検討会(3ブロック有田)

日 時：平成27年3月23日(月) 19:30~21:00

場 所：済生会有田病院

座 長 奈良岡 隆也 (有田市立病院)

1. 在宅復帰後の趣味活動についての一症例 - ガーデニングを行う際のしゃがみ込み動作に着目して
済生会有田病院 徳廣 竜一

2. 電気療法が下腿に与える荷重量への影響

西岡病院 玉置 弘貴

3. 腰部深部筋に対する光線療法で変化がみられた一症例

西岡病院 出口 貴浩

新人症例検討会 (3 ブロック海南)

日 時：平成27年3月26日(木) 19:30~21:00

場 所：辻整形外科

座 長 水谷 崇 (辻秀輝整形外科)

1. 人工股関節置換術後、脱臼し再置換術を行った症例

海南医療センター 場谷 理範

2. 皮膚テーピングの即時効果の検証

さくらクリニック 南方 勇樹

3. シーティング、環境設定により食事動作が向上した症例

辻整形外科 久保 朱加

4. 変形性膝関節症における膝関節伸展制限と足趾握力についての関係

辻整形外科 倉橋 典也

5. 変形性膝関節症を有す高齢者における後方への最大一步幅とバランスとの関連性

辻整形外科 田中 正道

新人症例検討会 (4 ブロックC)

日 時：平成27年3月30日(月) 19:30~21:00

場 所：リバティ博愛

座 長 土谷 宏美 (リバティ博愛)

1. 簡易体圧測定器を用いて褥瘡の発生予防に努めた一症例

北出病院 義本 泰隆

2. 運動療法の工夫により疼痛が軽減できた腰椎椎間板ヘルニアの1症例

北出病院 浅香 智紀

3. 超高齢者に対して介助量軽減に努めた一症例

北出病院 南野 太佑

4. スローイングフォームの修正により遠投距離が延長した症例

北出病院 川村 知也

5. 左足指切断で免荷期間が遷延したが、歩行再獲得に至った一症例

北出病院 山本 享

中紀局研修会「Women's Health 理学療法」

日 時：平成27年6月20日(土) 15:00~17:30

場 所：済生会有田病院

講 師：宇治 真澄 (はしもと整形外科)、花澤 侑里佳 (リバティ博愛)

参加者：13施設 45名参加

中紀局新人歓迎会

日 時：平成27年6月20日(土) 18:30~21:00

場 所：湯浅城

参加者：12施設 41名参加

【紀南地域局】

紀南地域局担当理事 安井 常正

第2回紀南地域局研修会

日時：平成26年11月22日（土）13：30～18：00
場所：成華苑
内容：「リンパ性浮腫に対する複合的理学療法」
講師：岩田 芳明（国保すさみ病院）
参加数：8施設18名

懇親会

日時：平成26年11月22日（土）19：00～
場所：楽市・楽座
参加数：4施設8名

第1回紀南地域局ブロック長会議

日時：平成26年12月7日（日）
場所：成華苑
内容：次年度事業計画について

関節運動療法研修会

日時：平成27年2月28日（土）9：00～18：00
場所：紀南病院
講師：平木 治朗先生（森之宮医療大学）
参加数：37名



関節運動療法研修会での様子

第3回紀南地域局研修会

日時：平成27年3月28日（土）14：00～18：30
場所：新宮市立医療センター
内容：「筋緊張の改善とやる気を引き出すアプローチーバランス戦略の持つ意味の再検討ー」
講師：富田 昌夫先生（藤田保健衛生大学・佛教大学客員教授）
参加数：20施設33名

懇親会

日時：平成27年3月28日（土）19：30～
場所：和ダイニング燈
参加数：18名

第5ブロック

第1回ブロック会議

日時：平成27年5月8日（金）19：00～
場所：白浜はまゆう病院
内容：ブロック会議（新人オリエンテーション、新入及び既存会員の紹介、平成27年度連絡網の配布、平成27年度事業計画、等）
参加数：40名

第6ブロック

勉強会

日時：平成27年1月23日（金）18：30～
場所：那智勝浦町立温泉病院
内容：「検査所見とリハビリテーション」
講師：辻原 良恵（那智勝浦町立温泉病院）
参加数：4施設20名

勉強会

日 時：平成 27 年 5 月 16 日（土）16：00～17：00
場 所：新宮市立医療センター
内 容：「理学療法士・作業療法士等から見た治療対象者の障害受容と性格特性」
講 師：佐藤 和敏
参加者：24 名

新人歓迎会

日 時：平成 26 年 5 月 16 日（土）18:00～
場 所：吾作
参加者：25 名

「紀南研修会を受講して」

新宮市立医療センター 西畑 将史

平成 27 年 3 月 28 日（土）に、平成 26 年度第 3 回紀南地域局研修会を開催させて頂きました。この研修会は『筋緊張の改善とやる気を引き出すアプローチーバランス戦略の持つ意味の再検討ー』をテーマとして、富田昌夫先生（藤田保健衛生大学 医療科学部・佛教大学 保健医療技術学部 客員教授）から御講演を頂きました。当日は 33 名の協会員が参加して下さり、講義・実技と内容の濃い一日を過ごすことができました。

研修会の内容として、富田先生の資料の一文を、以下に抜粋させて頂きます。

『基本動作のバランス戦略選定には、患者のやる気や不安という運動学的要因とは違う情動的な要素が含まれる。不安があれば無自覚のうちに“安定して動かない”戦略が選択される。その戦略のもとでも意識すれば様々な戦術を使用できる。しかし、意識することで戦略は変えられない。動作を行う中で患者がやる気を出し、動いても危険でないことに気づいて“危険、できない”という思い込みをぬぐい去ることができたときにのみ、積極的に動く戦略に変えられる。治療という行為を通して患者の情動まで変えるコミュニケーションや接し方が極めて重要になってくる。恐れ、不安という患者の情動や、思い込みを無視して治療は成り立たない。ところがエビデンスに基づいた治療を進めたい PT は論理的、知的になりすぎて患者の情動を無視してしまうことが少なくない。患者の思い込み、セラピストの思い込みを克服し、両者が共感できる接し方、治療法を工夫できたとき、“これからの理学療法の可能性”は更に大きなものになると考える。』

講義と実技を通して、自分自身も患者の情動を無視して、思い込みでアプローチを行っていなかったかと、考えさせられました。今後は、患者の情動まで変えるコミュニケーションや接し方ということを念頭に置き、動いても危険でないことに気づいてもらえるように治療法を工夫し、能動的な活動を引き出せるよう、アプローチを行っていきたいと感じました。

各委員会より

◇地域包括ケア推進特別委員会報告

地域包括ケア推進特別委員委員長 森本 昌信

1. 日本理学療法士協会より

地域包括ケアシステムの推進について

日本リハビリテーション病院・施設協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会の会長名で、日本医師会に地域リハビリテーション活動の推進について協力依頼をした。

同様に、各都道府県の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士会の会長宛に依頼があった。

2. 和歌山県理学療法士協会の活動として

1) 3 協会協働の窓口設置

H27. 4. 27 県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士会長、事務局長にて会議開催
和歌山県リハビリテーション協議会を設置

2) 県医師会・県庁担当課（長寿社会課高齢者生活支援室）へ協力依頼文書を送付

3. 長寿社会課 高齢者生活支援室より

平成 27 年度地域包括支援センター機能強化事業について

- ・県内の地域包括支援センターに、地域ケア会議、介護予防の講師等の派遣を理学療法士協会に依頼あり。
- ・県から地域包括支援センターに調査を行い、希望のあった地域包括支援センターに県協会から連絡し、調整を行う予定。

4. 医務課より

在宅医療の提供体制の構築について

- ・検討委員会委員について中前会長に依頼あり受託。
また、保健医療圏域での在宅医療体制検討委員会を設置しそれぞれの連携を図っていく予定のため、圏域毎に委員を推薦する予定で準備をすすめていく。

団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けて、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題となっています。昨年の6月には、医療介護総合確保法が成立し、市町村が実施主体である介護予防・日常生活支援総合事業に、「地域リハビリテーション活動支援事業」が位置づけられました。この事業へリハビリテーション専門職である理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が地域のニーズを踏まえた上で、関わることの重要性およびその意義を理解いただき、地域リハビリテーション活動への理解、また各事業への協力をお願いするための文書を県医師会、県担当課に送付いたしました。

理学療法士長および会員の皆様にお願ひ

昨年度は、福祉・保健局にて地域包括ケア推進リーダー養成導入研修会、介護予防推進リーダー養成研修会を開催し、大勢の方が修了されています。今年度も各1回研修会の開催を予定していますので、昨年度受講できなかった方はぜひ受講していただけるようお願いいたします。

これからは各市町村において地域ケア会議への出席依頼や講師依頼等、また介護予防事業への理学療法士の派遣依頼が増えてくることが予測されます。すでに、地域ケア会議への理学療法士の派遣や推薦依頼があり、また介護予防事業への協力依頼があり、当協会から推薦をさせていただき事業に参加していただいている施設・先生方もいらっしゃいます。

施設の理学療法士長の先生方はじめ会員の皆様方には、今後の依頼に向けてご協力の程よろしくお願ひいたします。

事務局より

他団体・他士会からのニュース 学術誌の受領報告 (H27.2.27～H.27.6.15)

【ニュース】

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| (公社)兵庫県 No.159 | (公社)山梨県 No.144. |
| (公社)新潟県 No.167、No.168 | (公社)大分県 No.102(163) |
| (公社)滋賀県 No.189、No.190 | (一社)静岡県 No.149、No.150 |
| (公社)広島県 No.237、No.238 | (公社)佐賀県 No.101 |
| (公社)愛知県 No.177 | (公社)大阪府 No.248 |
| (公社)神奈川県 No.262、No.263 | (一社)京都府 No.264 |
| (公社)秋田県 No.163、No.164 | (一社)群馬県 No.121 |
| (公社)鹿児島県 No.58、No.59、No.60 | |
| (公社)長崎県 No.50、No.51 | |

【学術誌・学会誌・機関誌・記念誌】

社団法人 岐阜県理学療法士会 学術誌第19号

紀流 第45号

難病コミュニケーション支援シンポジウム 資料集 一般社団法人 日本ALS協会

難病コミュニケーション支援講座テキスト 一般社団法人 日本ALS協会

和歌山県病院薬剤師会会誌 2014 第23号

平成26年度 地域保健総合推進事業 地域保健に関わる理学療法士・作業療法士の人材育成に関する調査研究
病院から在宅へのチームサポートを行うための手引き・家に帰ろう・

和歌山県病院協会会報 平成27年3月号 No.225

理学療法研究・長野 第 43 号 2014

平成 26 年度 老人保健事業推進費等補助金 介護予防や地域包括ケアの推進に対する国民の意識調査研究事業

長崎理学療法 Vol.15 2014

理学療法さが Vol.1 No.1 2015

和歌山県言語聴覚士会 News Letter 第 28 号

宮崎県理学療法士会会報 symPaThy Vol.12

滋賀県理学療法士会会誌 湖都 第 34 号 2014

以上の刊行物をご覧になりたい方は、

事務局、資料調査・管理部の酒井雄亮氏（琴の浦リハビリテーションセンター）までお問い合わせ下さい。

■事務局からのお願い■

庶務部より

庶務部長 小田 佳亮

施設長名変更時のお願い

変更があった場合、速やかに協会庶務宛に FAX またはメールにてご連絡下さい。

協会事務局 FAX : 073-446-1207

メールアドレス : wpt-shom@pt-wakayama.or.jp

記載の内容に関しては、変更前の氏名と変更後の氏名の両方を記載お願いします。

また、フリガナの記載もよろしくお願ひ致します。

FAX にて送信して頂く場合は文字を大きめで崩さずに記載して頂けるようにお願ひ致します。

編集後記

夏真っ盛りの今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回の協会ニュース7月号は内容が盛りだくさんとなりました。

新入会員の皆様も就職して早3ヵ月が過ぎ、仕事にも慣れてきた頃でしょうか。

新入会員の皆様にとっては初めて手にする協会ニュースで、ご自身の写真とプロフィールが掲載され、やや気恥かしいことかと思えます。協会ニュースを読まれていかがでしたでしょうか。会長の巻頭言では、我々理学療法士業界の現況、今一番取り組まねばならない課題や展望について簡単にまとめられています。新社会人としてまずは業務を覚え、技術を習得しなければなりません、政治や経済などの社会情勢にも目を向けなければならないことが理解できます。我々理学療法士は、「体」と「生活」に関わる専門家ですが、決してそれだけに偏らないよう、広い視野を持つことが今後求められてくることでしょう。

臨床や研究は我々の最も大切にしなければならないところですが、日々安心して臨床活動ができる背景には、国に対する日本理学療法士協会の働きかけや、地方行政に対する和歌山県理学療法士協会の働きかけがあるからこそ、協会の実施する研修会や事業についてご理解いただき、積極的に参加されるようお願い致します。

特に今年は、紀の国わかやま国体・わかやま大会が9月から10月にかけて行われます。私たち理学療法士は各競技別にコンディショニングルームを開設し、コンディショニングサポートとして全国の選手に対し、スポーツマッサージ、ストレッチ、テーピング等を提供することになっています。大会開催に向けての準備が着々と進められておりますので、出場選手の方々が思い出に残る大会となるよう、是非とも会員の皆様のご協力をお願い致します。また、地域包括ケアシステムの推進に向けての組織作りも喫緊の課題であり、たくさんの会員の皆様のご協力が無ければ成り立ちません。一つひとつの業務を完遂するには、大変な努力とエネルギーが必要です。先般行われました日本理学療法士協会創立50周年記念式典では、全国で34名の理学療法士が表彰され、そのうち和歌山県から5名も受賞されました。5名の先生方の受賞とこれまでの業績やご努力に敬意を表するとともに、新入会員の皆様も受賞された5名の先生方の後に続くよう、毎日の臨床業務や研究はもとより、協会事業へも参加し、将来の和歌山県理学療法士協会、ひいては日本理学療法士協会を背負って立つ気持ちで頑張ってくださいと思います。

私は昨年の途中から広報局のIT部長を務めさせて頂き、ホームページの管理を行っています。皆様はこの協会ニュースをホームページで見ることができるのはご存知でしょうか。ホームページの「活動のご紹介」を開いて頂ければ、2年前のニュースから個人情報以外の内容を掲載し、写真もカラーで見ることができますので、是非一度ご覧頂けたら幸いです。今後も質の高いホームページを作るために頑張っていきますので、皆様からのご意見等がございましたら広報局までお寄せ下さい。

(広報局 IT 部長 川端 一世)



公益社団法人

和歌山県理学療法士協会

公益社団法人 和歌山県理学療法士協会
【事務局】
琴の浦リハビリテーションセンター内
〒641-0014 和歌山市毛見1451
TEL 073(499)5000